

平成24年6月土佐清水市議会定例会会議録

第7日（平成24年 6月18日 月曜日）

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

議事日程

日程第1 報告第2号「専決処分した事件の報告について（土佐清水市特別導入型肉用牛貸付事業債権の放棄について）」から報告第9号「専決処分した事件の承認について（土佐清水市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について）」までの報告8件並びに議案第29号「平成24年度土佐清水市一般会計補正予算（第1号）」から議案第30号「平成24年土佐清水市介護保険特別会計補正予算（第1号）」についての議案2件及び議案第33号「土佐清水市火災予防条例の一部を改正する条例の制定について」から議案第38号「土佐清水市立中央公民館の設置及び管理に関する条例の制定について」までの議案6件、計16件  
(質疑)

日程第2 一般質問

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

本日の会議に付した事件

日程第1から日程第2まで

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

議員定数 14人

現在員数 14人

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

出席議員 14人

|     |           |     |           |
|-----|-----------|-----|-----------|
| 1番  | 矢野川 周 平 君 | 2番  | 森 一 美 君   |
| 3番  | 小 川 豊 治 君 | 4番  | 西 原 強 志 君 |
| 5番  | 永 野 裕 夫 君 | 6番  | 岡 林 喜 男 君 |
| 7番  | 永 野 修 君   | 8番  | 岡 崎 宣 男 君 |
| 9番  | 瀧 澤 満 君   | 10番 | 岡 林 守 正 君 |
| 11番 | 仲 田 強 君   | 12番 | 井 村 敏 雄 君 |
| 13番 | 橋 本 敏 男 君 | 14番 | 武 藤 清 君   |

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

欠席議員

な し

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

#### 事務局職員出席者

|             |          |         |         |
|-------------|----------|---------|---------|
| 議 会 事 務 局 長 | 岡崎 光正 君  | 局 長 補 佐 | 亀谷 幸則 君 |
| 議 事 係 長     | 池 正澄 君   | 主 査     | 宮地 一豊 君 |
| 主 事         | 中山 真寿美 君 |         |         |

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

#### 出席要求による出席者

|                        |         |                              |         |
|------------------------|---------|------------------------------|---------|
| 市 長                    | 杉村 章生 君 | 副 市 長                        | 吉村 博文 君 |
| 会 計 管 理 者<br>兼 会 計 課 長 | 酒井 紳三 君 | 固定資産評価員心得<br>兼 税 務 課 長       | 浦中 伸二 君 |
| 企 画 財 政 課 長            | 山田 順行 君 | 総 務 課 長                      | 山崎 俊二 君 |
| 消 防 長                  | 濱田 益夫 君 | 消 防 署 長                      | 弘田 正明 君 |
| 健 康 推 進 課 長            | 山下 毅 君  | 福 祉 事 務 所 長                  | 二宮 真弓 君 |
| 市 民 課 長                | 横山 周次 君 | 環 境 課 長 兼<br>清掃管理事務所長        | 坂本 和也 君 |
| ま ち づ く り<br>対 策 課 長   | 木下 司 君  | 産 業 振 興 課 長                  | 泥谷 光信 君 |
| 産 業 基 盤 課 長            | 磯脇 堂三 君 | 水 道 課 長                      | 山本 豊 君  |
| じ ん け ん 課 長            | 中山 直喜 君 | し お さ い 園 長                  | 倉本 和典 君 |
| 教 育 長                  | 村上 康雄 君 | 学 校 教 育 長                    | 黒原 一寿 君 |
| 生涯学習課長兼<br>中央公民館長      | 山下 博道 君 | 教育センター所長<br>兼少年補導センター<br>所 長 | 武政 聖 君  |
| 選挙管理委員会<br>事 務 局 長     | 徳井 直之 君 | 監査委員事務局長                     | 中山 優 君  |

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

午前10時 0分 開 議

○議長（武藤 清君） おはようございます。定刻でございます。

ただ今から平成24年6月土佐清水市議会定例会第7日目の会議を開きます。

日程第1、市長提出報告第2号「専決処分した事件の報告について（土佐清水市特別導入型

肉用牛貸付事業債権の放棄について）」から報告第9号「専決処分した事件の承認について（土佐清水市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について）」までの報告8件並びに議案第29号「平成24年度土佐清水市一般会計補正予算（第1号）について」から議案第30号「平成24年土佐清水市介護保険特別会計補正予算（第1号）について」までの議案2件及び議案第33号「土佐清水市火災予防条例の一部を改正する条例の制定について」から議案第38号「土佐清水市立中央公民館の設置及び管理に関する条例の制定について」までの議案6件、計16件を一括議題といたします。

ただ今から質疑に入ります。

ただ今のところ、通告による質疑はございません。

質疑の方はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（武藤 清君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

日程第2、ただ今から一般質問を行います。

発言通告順により、質問を許します。

8番 岡崎宣男君。

（8番 岡崎宣男君登壇）

○8番（岡崎宣男君） おはようございます。

久しぶりのトップバッターで非常に気分をよくしております。なお、6月3日、菊池直子、これサリンで逮捕されました。さらに、6月14日、最後の警察庁指定特別手配被疑者、これは危険人物ですけれども、高橋克也も逮捕されまして、一連のサリン事件等々の犯人が逮捕されたということで、非常に気分をよくしております。例のオウム真理教、サリン300t、殺傷能力7,000万人とこういうのをやっていたのですけれども、無事、最後の一人が逮捕されて、非常によかったと。これもすべて報道、あるいは市民の通報のおかげと、またこういうことは我々議員にしたって、行政にしたって、すべて一緒だと思いますけれども、市民の協力なくしてこういうことはできないと、こういうふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、通告に従いまして、一般質問を行います。

今回、私は、滞納整理課の新設と三崎地区の排水問題の2点を取り上げております。

第1点の滞納整理課の新設については、昨年12月議会において質問をし、その後の経過と高知新聞の連載である平成の市町村職員たち、公の群像というのがこの前終わったわけですが、これから多くのヒントとか、取り組んでいる職員の姿勢、特に佐川町なんかも出てお

りましたけれども、この件において非常に感銘を受けており、また、ぜひとも本市においてもやるべきだという信念のもと、質問を行うことといたします。

それでは、具体的にお尋ねをいたしますが、第１点、本市の公、私債権の状況については、ただし、介護保険と後期高齢者保険を除いた分ですけれども、税務関係、いわゆる市民税、法人市民税、固定資産税、軽自動車税、入湯税、国民健康保険税、まとめて行いますが、平成２４年５月３１日付税務課の資料によりますと、現年度分の未収が７,４２７万２８円、過年度分の繰越が２億３,５６４万４,０３２円、保育料は現年度分２１万４,０００円、過年度分４２９万６,２８０円、公債権は現年度分で７,４４８万４,０２８円、過年度分が２億３,９９４万３１２円、総額といたしまして、現年・過年度分で３億１,４４２万４,３４０円といただいた資料にはなっております。

私債権といたしましては、まちづくり対策課が所管する新築資金貸付金、住宅使用料、この二つをまとめて言いますと、現年度分で６２６万６,３７３円、過年度分が６,６２７万９,２８２円、水道使用料、５月３１日付の資料でございますけれども、現年度分２,８４６万２,８１７円、過年度分２,８０８万９,８０２円、奨学資金は５月３１日付です。現年度分７９０万９,６００円、過年度分５５０万４,４００円、私債権は合計で現年度分が４,２６３万８,７９０円、過年度分が９,９８７万３,４８４円となっております。これらを合わせますと総計、公、私債権の現年度分は１億１,７１２万２,８１８円、公、私債権の過年度分は３億３,９８１万３,７９６円、２４年５月３１日現在で現年プラス過年度分は合計で４億５,６９３万６,６１４円となっております。

喫緊の問題として、私は清水保育所の移転問題など、災害対策に多額な資金を要する現在、本市のように財政力指数、自前の指数は０.２５、経常収支比率８９.５％、実質公債比率１８.４％など、自主財源が少なく、財政基盤の弱い本市においては、未収額の解消、滞納整理が望まれますが、本件に対する副市長の財政感覚及び市民に対する公平性の確保について、その認識をお伺いいたします。

○議長（武藤 清君） 執行部の答弁を求めます。

副市長。

（副市長 吉村博文君自席）

○副市長（吉村博文君） おはようございます。

それでは、お答えをいたします。

本市の当初における予算規模は、ここ数年来、９０億円台で推移をしておりましたが、平成２３年、２４年度は、大型事業の導入により、１００億円台の予算編成となっております。

また、県下１１市の中でも、規模としては下位に位置しているのが実態であります。

議員ご案内のありましたように、今後におきましても保育所の移転、あるいは防災対策に多額の経費を要すると思っておりますし、財政分析指標を見ましても、自主財源に乏しく、地方交付税、地方債、地方譲与税、国・県支出金に大きく依存もしております。

経常経費への充当も高く、弾力性が乏しく、財政構造の硬直化が危惧をされるところであります。

このような中で、本市の貴重な自主財源であります公債・市債につきましては、議員ご案内のように多額の4億5,000万円余りの未収金となっております。これら未収金の解消、確保を図らなければならないと認識もしておりますし、法、あるいは条例に遵守することを基本として、何よりも大変経済的に厳しい家計の中で納めていただいている市民もおります。正直者やまじめな者が損をしないよう、公正公平な賦課徴収に努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（武藤 清君） 8番、岡崎宣男君。

（8番 岡崎宣男君発言席）

○8番（岡崎宣男君） 副市長もその辺、よくわかっておるようではございますけれども、徴収率は本市は高知県34市町村のうち、常に30位前後やない、その辺をうろうろしているわけですから、その辺もさらに頑張っていただきたいということと、これから先のいわゆる経済情勢等々を考えてみても、これは言うまでもなく、2007年のアメリカの住宅ローン、サブプライム危機でありますけれども、これに端を発しまして、2008年のリーマンショック、これで世界的金融不安となり、各種通貨が円に集まり、超円高に振れました。現在もEU圏、いわゆるユーロ。ポルトガル、イタリア、アイルランド、ギリシャ、スペイン、これイタリアも大変なことになっておりますけれども、さらにシリアで紛争が起きております。去年はタイで大雨もありました。中東問題等、経済環境は非常に悪い。このような状態で日本経済を支えていた輸出産業に大きなダメージを与えた結果として、日本経済が痛手をこうむったのはご案内のとおりであります。市民生活においても、年金は下がる、我々も下がりました。介護保険が上がる、ガソリンも上がる、非常に逆進性の強い消費税も民主・自民・公明、これどうやら実務者会議で了解したようでありますので、早晚8%、さらに10%に上がると、こういうことは間違いない。それで引き続き、景気は悪くなる。これはずっと続くと思っております。経済が悪ければ悪いほど、納税者である市民は税の公平さを求めるのは、これはごく当然と思っております。先ほど、副市長が言ったように、いわゆる正直者がばかを見るような世の中ではないかと、これは全くそのとおり。税金については、憲法第30条の納税の義務があります。その反対に憲法第25条では、すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活云々で、どうしても困った人からは取れないというようなことですので、これは国税徴収法、あるいは地方税法

等で定められているところでありますけれども、高知新聞の公の群像の中で、こういうのが一つ載っております。行政サービスは税金があつて初めてできる。その税の徴収の仕方が不公平やったらいかん云々、これは確か松原さんやったと思いますが、との言葉がありますが、公、私債権の回収について、副市長はどのように考え、どのように対応し、市民の理解を得るのか、答弁を求めます。

○議長（武藤 清君） 副市長。

（副市長 吉村博文君自席）

○副市長（吉村博文君） お答えいたします。

先ほども答弁をいたしましたけれども、本市の財政基盤は大変弱く、多くは国・県等に依存した財源を主として行政施策を執行しているのが実態であります。新たな市民サービスや市独自の市民サービス、また、市民の付託にこたえるためには、歳入の安定的な確保、また、自由度の効く歳入の確保に努める必要があると思います。

歳入の確保策の中心は言うまでもなく、税金の確保であります。それぞれの所管におけるその権限に応じた歳入の確保対策に取り組む必要があると認識もしております。

税の徴収に当たりましては、悪質な案件の滞納整理機関として、平成20年4月に幡多租税債権管理機構が発足をいたしました。本市も毎年、職員を派遣をいたしまして、滞納整理能力の取得、また毎年70件余りを移管して、収納率22年度におきましては41.57%、23年度につきましては48.79%と一定の成果も出ているところでありますけれども、本課におきましても、取得したノウハウを活用し、滞納者の財産調査件数や差し押さえ件数も増加もしております。

また、私債権につきましては、過去の取り組み等を含め、職員の認識不足があり、当議会でもその認識や対応の甘さが指摘をされてきました。

平成20年1月から、庁内検討を経て、昨年4月より条例整備がなされてきたところでありますが、各所管担当者だけでは未収金回収に限界も来ており、現在、行革本部内に作業部会を設置をいたしまして、債権回収に向けた人員配置等組織体制整備の検討を行っております。いずれにいたしましても、4億円余りの未収金がありますし、市民の徴収行政の厳しい目線があります。自主財源の確保や公正の確保に努めることで、市民の理解を得なければならないと考えておりますので、作業部会検討結果を受けて、全庁的な未収金回収に向けた体制整備を図りたいというふうに考えております。

○議長（武藤 清君） 8番、岡崎宣男君。

（8番 岡崎宣男君発言席）

○8番（岡崎宣男君） 副市長、かなり積極的な答弁でありますけれど、そのようにひとつ、

ぜひともええことを言っても実行しなかったらなんにもならない。ひとつその実行方をよろしく願いをいたします。

次に、副市長にですけれども、高知新聞によりますと、高知県東部の市において、貸付金 950 万円の件で、市に返済記録がないのに登記簿から抵当権抹消がなされていたとの報道がありました。さらに、抵当権の順位が変更されていたとの報道があったところでありますけれども、本市においてはこのようなことはまずもってないと、このように私も確信しておりますが、副市長、抵当権の順位の変更、これはどういう意味があるのか、法的な意味も含めて、具体的にひとつ答えてください。

○議長（武藤 清君） 副市長。

（副市長 吉村博文君自席）

○副市長（吉村博文君） お答えいたします。

抵当権につきましては、担保物件のひとつと言われておりまして、例えば、お金を貸し付ける側が返済不能になったときの保証として設定する権利というふうに聞いております。この物件には何重にも設定が可能で、早く抵当権の登記をしたものから、抵当権者の順位が設定され、弁済が不能になった場合、物件の競売金額からの弁済についても、高順位から弁済されることになり、競売価格や抵当権順位によっては、弁済されない場合があります、また全額弁済されないことも考えられます。

順位変更は、利害関係者の承諾、あるいは上位債権者への完済による自動繰上も考えられるところでありますけれども、その状況によっては弁済額に影響していくものというふうに考えております。

○議長（武藤 清君） 8 番、岡崎宣男君。

（8 番 岡崎宣男君発言席）

○8 番（岡崎宣男君） 副市長には答弁求めませんけれども、いわゆる抵当権の順位の変更です。第一抵当であつたら、競売なんかにしてもその分はもらえると。第二、第三はその後ということで、これは抵当権の順位の変更なんて、すべてお互いに合意しないとできない。だから、本市ではないからええようなものの、そういうようなこともひとつ、十分に考えていただくのと、新築資金なんかにしても、とりあえずは、抵当権第一順位であろう。第一順位やったら競売したところから取つたらええ。第二、第三順位になったら取れないことが幾らでも世の中にはあるし、抵当権が五つも、六つも入っているのは、私も経験はしておりますが、市でやった場合は、すべて第一抵当であろうというふうに思っております。

また、各課長さん方も、抵当権等々につきましては、そんなことがもしあった場合は、またインターネットなど、どこでもええけん、聞いて適正にひとつやっていただきたいという

ふうに思います。

それでは、次に、昨年１２月議会において、私が市長に債権管理について一般質問を行いました。その際、市長は主旨として、これは必ずしも同じようなことは言っておりませんが、１階の機構改革時に前向きに検討する、こういうふうに私は受けとめておりますけれども、旨のご所見でありました。聞けば、現在、検討チームをつくって、るる検討しているとのことでもありますけれども、検討チームでどのような具体的な検討を行っているのか、進行状況について発表できる範囲で結構でありますけれども、企画財政課長には、あなたの私見も交えてひとつお答え願いたいというふうに思います。企画財政課長、お願いします。

○議長（武藤 清君） 企画財政課長。

（企画財政課長 山田順行君自席）

○企画財政課長（山田順行君） 昨年１２月議会以降の検討状況についてお答えをいたします。

昨年度の行政改革の取り組みがかなりハードスケジュールになったことを踏まえまして、１２月議会以降、次年度の検討項目について素案をまとめ、市長の指示を受けたところであります。

今年度は、行革推進本部における検討事項を昨年度より２カ月早い４月１３日に確認をした上で、各検討項目ごとに三つの作業部会を組織をし、具体的検討を進めているところです。

ご質問の滞納整理につきましては、債権管理事務の一元化の検討といたしまして、第３作業部会での検討項目としたところです。平成２２年度に債権管理マニュアルを作成をした各係から１０名を部会員とし、毎月２回程度の検討協議を踏まえ、１０月には一定の方向性を示す検討結果を集約し、行政改革推進本部に報告をすることとしております。

現在までの部会における検討状況につきましては、各課における滞納整理の取り組み状況、課題等の協議を行い、部会の総意として債権管理の一元化が必要であるとの確認を行ったところであります。

今後は、具体的・実務的な事務処理方法について検討を進めることとしており、今月２６日は外部講師を招いての債権管理の研修を実施し、７月には県内市町村で先進的な取り組みを実施しております佐川町や香南市などの具体的な事務処理方法や組織体制について、視察研修を予定しております。

債権管理、滞納整理の一元化に当たっては、実務レベルの課題として、一元化する債権の種類の決定、過年分、現年分などの取り扱いをどうするのか、所管課との事務配分、各債権データを共有化するための新たなネットワークシステムが必要となることなど、幾つかの課題があり、今後は事務処理方法等の具体的な検討が急がれるところであります。

いずれにいたしましても、債権管理事務の一元化は、市民に対する公平性の担保、行政事務



の合理化・効率化という意味においても、企画財政課といたしましては、早期に実施すべきと考えております。

○議長（武藤 清君） 8 番、岡崎宣男君。

（8 番 岡崎宣男君発言席）

○8 番（岡崎宣男君） 企画財政課長もその必要性云々についてはよくご案内のとおりということでありますので、ぜひとも滞納整理について、皆さんが必要と思っているようでありますので、その辺はぜひとも滞納整理課になるように頑張っていただきたいと、これからは市長に質問しますけれども、それでは、次に徴収率から見た人材の確保、活用について市長にお尋ねいたしますけれども、幡多租税債権管理機構の資料によりますと、税の徴収率が県下 34 市町村の中で、平成 21 年度は現年が 95.9%で県下で 33 位とずっと下のほうであります。滞納繰越の徴収率は、13.5%で県下 30 位と。22 年度は現年 95.1%で県下で一番すそのほうであります。滞納繰越の徴収率は 19.2%で、県下 21 位であります。これは税務課の職員の努力、あるいは幡多租税債権管理機構などの努力によりまして、これは県下 21 位とこれくらいになったら、別に市民の付託にこたえられるのではないかと思います。余り名誉ある順位とは私としては思っておりません。これらから脱却する方法として、私は債権管理機構からかえった納税に詳しい職員の活用と税務経験があり、個性豊かな県 OB など、いわゆる少々のことを言われて、本音言われようが、怒鳴られようが、広い心でどんと受けとめるぐらいの度量のあるような方を採用、あるいは育成して、回収業務を一元化した方法をとるべきだと思っております。

人員の確保につきましては、ずっと市長は、3 分の 2 補充を行っておりますけれども、これらも一時中止でもして、人員の確保を行ってはいかがか。人員は減らす、課を新しくつくるとなれば、ほかの課に影響も非常に大きいから。人員の確保については、やはり市民の公平性の担保からでも、3 分の 2 補充を一時やめてでもやるべきだということうふうに私は思っておりますけれども、本件に対する市長の所見を求めます。

○議長（武藤 清君） 市長。

（市長 杉村章生君自席）

○市長（杉村章生君） 最大の懸案であります滞納について、総括的なご質問がございまして、一番頭の痛いところでありますけど、基本的には経済不況があらうと思います。いつの時代も、どんなに経済の活況の時代でも、やはり失礼な言い方でございますけど、悪質な滞納者は何%かおるわけでございますけど、特に不況になりますと滞納がふえると。これは本市の持つ宿命でございますから、何としてそれも克服しながら、公平性の担保のためにも取れるものは徹底的にとります。使命でありますので、やらないといけませんが、過去に 3 代目の市長、岡林亀市

さんという市長がおりまして、その当時、私も若い職員でございましたけども、すごい合併直後の滞納がありまして、特別徴収班というのを設置いたしまして、かなりの効果を上げました。そのときの反省をいろいろ僕も考えておりましたけども、一つは職員に非常に崇高な使命感が要るわけです。その裏返しとして、非常に苦労があるわけです。ですから、それを保障するために、特別手当も出して、思い切って手当も出してという経過がございます。そして、課長にも思い切った権限を持たせて、いちいち市長に言わなくても、課長に対して相当の処分権を持たせてやらせた。同時に、市長が口出さない。少々無理な徴収をしても、市長がそれちょっと待ってやれとか、ちょっと猶予したれとか、そういうことを一切言わない。つまり、総括して、相当の権限をもたせてやらせたという格好がございます。結果、数字は持っておりませんが、大きな効果が出ました。私はそのことを頭にちょっと浮かびまして、ただ今、事務的には担当課長もご答弁しましたように、機構改革の中でそういう位置づけをどうするか、基本的に検討してもらっておりますけど、できた答案に対しては、私はこの過去のただ今申し上げました事例も踏まえて、相当思い切った組織をつくらないといかんのかなと、基本的にこのように考えております。そういう意味で、それができたら、不名誉な過去の徴収実績に対しても、ある程度、市民に対してまあまあ公平に努力したということが言えるんじゃないかと思っておりますので、これは喫緊の課題だと認識しております。

○議長（武藤 清君） 8 番、岡崎宣男君。

（8 番 岡崎宣男君発言席）

○8 番（岡崎宣男君） 市長からも、以前、特別徴収班で頑張っておったと。特に課長に権限を持たせたほうがいいと、いろいろ思い切った対応等のご所見を示されました。いずれにしても、ちょっとでも前に進むためには、もちろん不景気だとか、どうしても取れない方が当然おいででしょう。どうしても払えるのに払えない方は、これは自力執行権をもって、これは当然やるべきで、払いたくても払えない、いわゆる生活保護、それによって、特に生活が困窮する方等々については、租税のほうでも執行停止、あるいは執行猶予等あるわけで、私債権においても、この前の条例で、放棄もあれば、免除もあれば、分納などもありましたけれども、それらもすべてそういうような一定の条件のもとに落とせるというようになっておるわけですが、要は支払い能力があるのに、払わない。それをしかし、払わないけど、それを徴収しないというのもこれは大きな一つの当然原因ですので、そこでもしっかりひとつやっていただきたい。それはもちろん憲法第 30 条の納税の義務もあれば、第 25 条の健康で文化的云々というものもある。そこら辺のことも十分考えながらやらんといかんのは当たり前ではありますが、とりあえず、思い切った対応を市長、やっていただきたい。

それから、次に、市長も先ほど言いましたけども、副市長、企画財政課長からも答弁があり

ましたが、係とかなんとかじゃなしに、課にしないと機動的な運用はできんと思っております。ここでひとつ佐川町の例を紹介しますが、佐川町はご案内のように、人口は約1万4,000人、佐川町では収納の一元化を図っており、特筆すべきは、私債権の管理に関する条例の中に、滞納者情報の相互利用というのが条文に盛り込まれております。これは人が体制をつくっても、法的な裏づけというのをつくらんと、自由に自信もってできない。この辺は本市も、また議会からなり、執行部からなり、提案をして情報の相互利用をしなければいかんのではないかと自分では思っております。

佐川町の場合、職員は5人で、正職員3人、臨時が1人、バイト1人で執行しております。いわゆる債務者の意思にかかわらず、給与、保険等から債権を回収する滞納処分、自力執行です。私債権のほうは民事訴訟、訴訟によりますところの強制執行等々で、相当な成果を上げております。佐川町の松原主幹からいただいた資料によりますと、公、私債権を回収しておるわけですが、税法適用分の徴収率は33.53%、私債権の徴収率は18.05%であります。資料はありますけれども、本市も自主財源確保のため、市民の福祉向上のため、ぜひ、滞納整理課を新設されたい。

滞納整理課やったら、それ専門ですから、自由に滞納税とか、私債権の回収とかできるわけで、係とかなんとか言いよったら、課長の意思次第で忙しいところへ行かせるは、ごく当たり前のことやけん、これはぜひ課にして、特別徴収班とかなんとかつくったところで一時的なものであって、課として置くのが私は一番ええとこういうふうに思っております。これこそが市民の付託、あるいは信頼にこたえる一方策ではないのかなと自分では思っております。

市長は、この2階の改革のときに、観光課がなくなりました。このときも当然、委員会においてもどこにおいても一部反対がありました。しかし、市長の決断で、これは機嫌よくできたわけです。1階の来年度に向けて今やっているのも、ぜひとも私は滞納整理課がええと思いますけれども、毅然としてこれは実行していただきたい。市長の胸三寸でこれはまずもって、副市長や企画財政課長もそれほど反抗できるわけでもないし、組織から見ても、ぜひとも市長に市民には公平感を職員には効率、あるいは効果的な職務執行のために、これをやることこそが私は市民の付託にこたえる真の政策だと自分では思っておりますが、市長にご所見を求めます。

○議長（武藤 清君） 市長。

（市長 杉村章生君自席）

○市長（杉村章生君） 前提といたしまして、職員数が段々減っておりますので、私はまだ庁内で諮っておりますけど、自分の考えとしては、今年からは3分の2調整でなくて、欠員補充で100%補充をしなければならないと、これ以上下げては限界かなと感じておりまして、十分議論したいと思います。その前提に立って、職員数はある程度確保しないと、仮にうちの

一般事務職で200名程度の小さな組織の中で、課を独立で置きますと、少なくとも課長を入れて5、6人程度、プラス法律の専門家を例えば嘱託的な職種で採用するにしても、7、8人くらい要るんじゃないかと考えております。いろいろ考えますと、やはり法律の専門家がいないと、なかなか強制執行をやるについて、職員では知識が不十分なところがありますので、幡多の機構でもそれが随分と大きな効果を発揮しております。これは必然ではないかと思えます。そう考えますと、組織づくりで特別徴収班的なものなのか、課にするのか、これが一番議論のポイントだと思います。

さらに、ほかの担当職員に、仮に独立した権限を持った課に、あるいはまた班になりましても、ほかの担当職員に関連があっても一切文句を言わせないというくらいの相当大的な権限がないとやれない。考えまして、いろいろ考えておりますが、いずれにいたしても、職員もある程度、これ以上の減員をとめて、そして100%欠員補充する中で、課にするのかどうか、ぎりぎりの判断をしたいと思いますが、担当が、検討中でございますので、結論が出てから最終的にまた話し合いをして方向を出したいと思いますが、そう何年も先というわけにもいきませんので、できれば、来年度、1階部分の機構改革の中で、積極的に対応したいと考えております。

○議長（武藤 清君） 8番、岡崎宣男君。

（8番 岡崎宣男君発言席）

○8番（岡崎宣男君） 市長から、最終的には班か課というようなことで、今、市長が結論、これ出せませんわね。今、るる企画財政課長以下がやりよるがやけん、これはよくわかりました。

ひとつ、私が一番思うのは、今、すぐに予算が要するというのは、清水保育園、児童何人おるかちょっと私、把握しておりませんけれども、ご案内のように逃げる、あるいは判断する、持久力等は全くといっていいほどありません。これらのものを小さな子どもを助けるのが、我々大人の責任であり、行政の責任であります。これを放置しながら、何かあったら相当因果関係、あるいは民法第709条等々から責任問題になろうかと、私やったらしますけれども、なろうかと思えますので、そこら辺もどうのこうの言っても、予算の問題もありますけん、すぐにといいわけにはいかんでしょうけれども、その財源確保のためにも、そういうふうなこともお考えをひとついただきたいとこういうふうに思っております。

それでは、市長に最後の質問を行います。過去10年間に於けるこれは私が議員になって3年ごとの過年度分の未収状況ですけれども、現年過年度分の未収状況ですが、平成14年、私、初めてここへ出させていただきました。このときの現年度分は7,257万8,076円、過年度分が2億9,688万801円、3年後の17年度が現年度分が6,876万3,061円、過

年度分が2億5,466万4,501円、20年度が現年度分が8,017万4,330円、過年度分が2億2,709万3,280円、23年度が現年度分が7,427万280円、過年度分が2億3,564万4,032円と大幅な変動はありません。この4回の平均につきましては、過年度分が平均2億5,357万654円、現年度分が7,394万6,374円、このような負の状況が続く限り、私としては現体制下では、滞納整理が大幅に進展することは過去の状況から見ても、なかなか難しいのではないかと考えております。本件の前進は、先ほど市長等、ご所見ありましたが、班か課かというようなことですが、ぜひとも課を新設して、真水である財源確保を図ることこそが真に市民の信頼を得る一方策であると確信をしております。

税務課の中にも、本当に滞納処分なんかどんどん市もやっております。嫌な思いもしておりますけれども、僕は人材はおると考えておりますので、他からも、あるいは課の中からも集めてやっていただきたいというふうに考えております。

はっきりしたことはともかくとして、本件については市長、いかがでしょうか。市長に最後のご所見を求めます。

○議長（武藤 清君） 市長。

（市長 杉村章生君自席）

○市長（杉村章生君） 現在、全国で810市ございます。東京都の特別区も入れまして。その中で、自主財源比率その他税収も含めて、うちは下から10番以内という非常に厳しい財政運営をしているまちでございまして、ご指摘のありましたように市長としても、非常にこのことについては気を病んでおります。一方で、実行しないといけませんので、確実にその行動に移れるというような組織づくりを歩まなければならないと思います。先ほども言いましたように、現在、検討中でございますが、一定の方向が出ましたならば、それに加えて、私の意見も加えながら、すぐ実行、しかも強力に実行できるような法的専門家も踏まえた、そういう人たちの加味した組織をつくるようにぜひ努力したいと思います。

○議長（武藤 清君） 8番、岡崎宣男君。

（8番 岡崎宣男君発言席）

○8番（岡崎宣男君） よくわかりました。結論から言えば市長も似たような認識とこういうふうに勝手に思っておりますけれども、いずれにしても、やれない理由を探すのではなく、やれるような根拠、あるいはやる方向、これを探すというふうにしていいただきたいというふうに思っております。

それでは、次に、三崎地区中溝川の冠水対策と三崎浦、農協の横の信号機付近から、三崎港のところに通称エンコプールと呼ばれる池があるわけですが、そこまでに至る排水対策について、これは全部、まちづくり対策課長にお聞きするわけであります。

まず、本件は平成13年の西南豪雨被害の後、三崎田園公園がつくられたことは、皆さん、ご案内のとおりであります。おかげで地区も非常に環境もよくなったし、今は池の中でヤマドリが5羽ひながかえって、7羽が編隊で泳いでおって、我々も見に行っているんですけども、非常にいい環境はつくっていただきました。

その一方、大きな雨とか、台風の場合は、三崎田園公園下流約150mぐらいの地点で、通称中溝川があふれ、道路が冠水し、池の水がしばしば溢水をします。その都度、消防分団が出勤して、土のうをいつも積んだりするんです。地区役員も現場に向かいますが、浸水する民家の方の労力は並々ならぬものがあります。私も本当に、いつも朝早く行って、それから昼行って、夜も行くんですけども、かなり活躍をしております。

本件につきましては、地区の総会でも問題提起されることはしばしばであります。公園をつくる際、排水で迷惑をかけないとの口約束があったと私は聞いております。また、区長にも確認しておりますけれども、そこで、中溝川を管理するまちづくり対策課長に今後の対応について、お聞きします。

課長、ひとつよろしく。

○議長（武藤 清君） まちづくり対策課長。

（まちづくり対策課長 木下 司君自席）

○まちづくり対策課長（木下 司君） お答えいたします。

中溝川の今後の具体的な対応ですが、去る4月22日の豪雨の雨量を報告しますと、午前9時から午後3時までの6時間雨量は、253ミリ、最大時間雨量57ミリ、時間当たり雨量平均も42.2ミリとなっており、三崎地区の雨量としては、近年にない雨量が短時間に降ったこととなります。

中溝川が氾濫する原因を考えると、田園公園からの排水量の増加、ケンピ工場横の頭首工からの用水路を閉鎖していなかったことや農地の圃場整備事業で実施した排水路断面の不足等が考えられます。

今後の対策といたしましては、田園公園からの排水調整ができないか、産業基盤課と協議をしてみたいと考えております。

また、ケンピ工場の横の頭首工から取水をしております用水路を、降雨時には閉鎖していただくように地元にお願いとするとともに、現在たまっている部分の土砂の取り除きをした後、降雨時の状況を確認し、それでも氾濫する場合は、根本的に中溝川の改修をする方向で考えております。

以上でございます。

○議長（武藤 清君） 8番、岡崎宣男君。

( 8 番 岡崎宣男君発言席)

○ 8 番 (岡崎宣男君) どうもありがとうございます。

課長もこの前から 3 回ほど田園公園、あるいは三崎のこちらに来ておるのは、ほかの地区の方から僕も聞いておるわけです。懸命にやっておるがやけん、余りきついことはもちろん言えないとしても、言いたいことは言わせていただきたいと思います。

それでは、次に、対策についてはお聞きしましたがけれども、最終的には幾ら言っても、あそこやってたって最下流の三崎の通称産業道路、この下に埋まっている暗渠、あれをもうちょっと広くしないとどうしようもないということは、だれでもわかっておるわけでありまして、急場しのぎとしては、中溝川があふれる箇所の掘削が考えられるが、これはいかがでしょうか。これは特に、その地区からの要望が強いわけです。ここ何とかすいてもらうことはできんがかえと言って、これはずっと 14 年から僕も 1 回か 2 回、僕も質問にあげたと思うんですけども、力足らずで実現に至っておりませんけれども、このことについて、まちづくり対策課長、お願いします。

○議長 (武藤 清君) まちづくり対策課長。

(まちづくり対策課長 木下 司君自席)

○まちづくり対策課長 (木下 司君) お答えいたします。

中溝川があふれる箇所については、農地の圃場整備で実施した排水路の断面が高さ 0.9 m、幅 1.1 m と非常に狭くなっている 50 m 間に土砂がたまってあふれております。この状況で放置すると、梅雨の間にまた氾濫すること考えられますので、早急に取り除くように進めております。

以上でございます。

○議長 (武藤 清君) 8 番、岡崎宣男君。

( 8 番 岡崎宣男君発言席)

○ 8 番 (岡崎宣男君) ありがとうございます。

これぜひとも、取り除いてもらわないと、今、4 号、5 号が続いて来てますけど、何とかしのげるかと。特に中野資のところ、課長も十分知っているやろうけど、かなり上がってきているね。あれ取らんかったらとんでもないことになる。

次に、三崎浦の信号機付近の排水についてお聞きいたしますけれども、ご案内のとおり、国道は中央が盛り上がって、かまぼこみたいになっておるわけですが、両脇の排水溝に一気に雨水が入ると、大雨・台風のときには、いつも苦情が寄せられて、私はいつも市役所のほうに行っております。本件についても、以前、まちづくり対策課担当者、県土木担当者が来た際に、近隣の住民が写真を手渡し対応をお願いと。そのときは、市も県も十分に協議して回答すると

というようなことを言っていたようでありますけれども、その県土木とまちづくりとの協議内容について、お示しをお願いしたい。それと、この住民の声というのは、機嫌よく上にまで上がって、風通しのよい職場になっておるのか、二者択一でちょっと答えてください。まちづくり対策課長お願いします。

○議長（武藤 清君） まちづくり対策課長。

（まちづくり対策課長 木下 司君自席）

○まちづくり対策課長（木下 司君） お答えをいたします。

三崎浦の信号機付近の排水については、清水事務所としては、国道の横断溝の断面が小さいのであれば、改修するとのことですが、この排水路の松下酒店裏付近で、個人の住家が降雨時には家庭排水ができなくなるので、排水路の断面を小さくしているとのことです。

県としても、横断溝を改修した場合、下流域が氾濫することになれば、下流域の住民にご迷惑をおかけしますので、下流域の改修を地元でお願いしたいとのこと。

これは、土木事務所から聞いております。

また、地元で施工する場合は、まちづくり対策の事業であります、すみよいまちづくり事業の下排水路整備事業で対応できますので、三崎浦区長と今後、下排水路の改修に向けて協議をしたいと考えております。

また、三崎浦信号付近の排水の分散についてですが、山本たばこ店と三崎農協間の市道三崎支所前2号線内に大型排水路を設置し、三崎市民センター前市道下に設置している都市下水路に放流する方法も検討したいと考えております。

以上でございます。

○議長（武藤 清君） 8番、岡崎宣男君。

（8番 岡崎宣男君発言席）

○8番（岡崎宣男君） わかりました。この間、課長も県土木も来ていろいろ検討してくれたから、課長は実態もよくおわかりだと思いますけれども、あの付近は八幡さんのところから、あるいは中溝川のところから、両方が高くなって来ているけん、あそこら辺にたまるがやけん。現に、ガソリンスタンドの前は草が生えてあれから出ているわね。それだけ土がたまっているけん、草が生えて上に出るがやけん、それだけあそこの付近が低いということの一つの証明ではありますけれども、この前も課長もいろいろ検討されたようでありますし、県土木のほうも来て、熱心に検討しておりましたので、これについてはそれでいいわけですがけれども、つかるのはあの付近と区長場の前の旧竹村薬局の奥さんところあたりもつかるがやけん。よくあなた方も付近に行って聞いてもらったらええけど、それと、課長が言うように、個人の所有権持っている畑あるわけ。あそこもなかなかあれやけど、早急に浅尾区長と協議をしてもらって、場合



によつてはまちづくりのほうもちょっと一緒に行つて、地権者と話なんかせんと、三崎浦の区長と両方で行つた方が一番いいかなと。私らも幾らかは知っておりますけれども、そのほうがいいかなとこういうふうに思いますので、また、区長の協力とまちづくりの積極的な活躍をお願いしたいとこういうふうに思っております。

それでは、最後でありますけれども、本件につきましても、中溝川、三崎田園公園から来た分です。最終出口はエンコプール横の産業道路の暗渠です。あれがちょっと広ければまだええやろうと自分では思っております。もちろん、この前、課長に言ったように、満潮のときはどうすればと言いますが、満潮のときは満潮のときで、要は常時どうあるべきかということですから、産業道路を抜け、三崎港に出る暗渠にあると私はこういうふうに思っております。排水量に対して、処理能力が不足しているというふうに思っているわけでありまして、本件、質問に先立ち、排水経路を調査いたしました。住民とみんなであそこの信号機からずっといって、もちろん松下酒店裏の畑つくっている方と、エンコプール横で畑つくっているご婦人に、これらの方からもすべて聞きましたということで、抜本的な解決という要請をされておりますけれども、あれを抜本的にやると言ったら、1年、2年でできるわけではありません。まずもって1年、2年ではできんやろうと思つてはいるんですが、そこの辺で課長には中長期的な計画をひとつ立ててもらつて、部落ともよく協議しながら、1年、2年でできるんやったら、誰も苦勞しないけど、そこら辺の計画について、今後のことについて、ひとつ答弁してください。

○議長（武藤 清君） まちづくり対策課長。

（まちづくり対策課長 木下 司君自席）

○まちづくり対策課長（木下 司君） ただ今、ご質問のありました岡崎議員さんの今の産業道路の部分ですけど、あの部分と、今、冠水していた農地なんかがあるエンコプールの横の分は一応、中溝川になっておりまして、上流域より河川としては改修済みということになっております。

この間の潮位の分はわかりませんが、河口部のため、潮位の影響を受けて、この間は排水能力が低下しているのではないかとということが考えられます。

また、酒店の裏からの排水路につきましては、3年前に三崎浦の区長さんから要望がありました。そういうことで、区長さんには集落内の排水路でありますので、どの地区も同じですが、事業主体は地元になりますので、用地問題が解決した場合、地元からまちづくり対策課のほうに申し出ていただければ、すみよいまちづくり事業の下排水路整備事業で対応しますということで、一応、お伝えをしております。

以上でございます。

○議長（武藤 清君） 8 番、岡崎宣男君。

（8 番 岡崎宣男君発言席）

○8 番（岡崎宣男君） 課長、答弁ありがとうございました。

3 年前に言って、余り進んでおらんのやったら、時々どうなっているかと言わんと、また進まんけん、それで中溝川のほうもひとつやっていただいたら、今、非常に環境がよくなって、私らもあそこでよく三崎田園公園を使わせてもらっておりますけれども、それこそ詰まることによって浸水することによって、画竜点睛を欠くというか、あれさえやってもらったらすべてがよくなるんやなというのが我々、地区住民の切なる願いでありますので、なお一層、今後の努力をお願いいたしまして、私のすべての質問は終わります。ありがとうございました。

○議長（武藤 清君） この際、暫時休憩いたします。

午前 1 0 時 5 8 分 休 憩

午前 1 1 時 0 8 分 再 開

○議長（武藤 清君） 休憩前に続いて会議を開きます。

午前に引き続き、一般質問を行います。

1 番 矢野川周平君。

（1 番 矢野川周平君発言席）

○1 番（矢野川周平君） 皆さん、おはようございます。

三崎地区出身の 2 番目の矢野川でございます。

一般質問に入ります前に、最近、就活、就職活動の略称ですが、就活自殺の報道が新聞に掲載されました。

就活自殺者 1, 0 0 0 人を突破との見出しでありました。

全国の自殺者数は、3 万 6 5 1 人で、1 9 9 8 年からの統計で 1 4 年連続して 3 万人を超えたということでもあります。

2 0 1 1 年の統計で目立つのは、学生・生徒の自殺で 1, 0 0 0 人を超え、1, 0 2 9 人、前年比で 1 0. 9 % の増加となっていることに問題があるものと思われます。

現在の就活は、低迷する経済の影響等から、全国的に就職率も伸び悩み、学生・生徒は過去に経験したことのない想像に絶するほどのプレッシャーを受けるとも言われています。このプレッシャーから学生同士の競争意識が広がり、次第に孤立していくと言われております。何とか非正規雇用労働にたどり着いても、社会的に劣る雇用身分の人という見方をされ、将来が見えてこないと言われております。

正社員になっても、過重労働などから、精神疾患を発症したり、1 人の正社員には何人分もの労働を求め、最後には過労死するほど働かされている現実があることなども公表され、若者

たちは自分勝手に想像し、将来を悲観することなどから自殺者の増加につながっていると言われております。

平成18年に施行された自殺対策基本法第2条第1項には自殺対策は、自殺が個人的な問題としてのみとらえられるべきものではなく、その背景にさまざまな社会要因があることを踏まえ、社会的な取り組みとして実施されなければならないとありますが、このどうしようもない結果に対し、ただただこの場をおかりしまして、自殺することのない社会が早く訪れることを希求するとともに、亡くなられた方、ご遺族の方々に対しまして、心からご冥福をお祈りいたします。

それでは、議長の許可をいただきましたので、通告に従いまして一般質問を行います。

最近、東南アジア海域等で日本の技術を生かした底引き網漁が盛んになっていると言われていますが、その底引き網には、大きな金属板やゴム製の車輪がついており、巨大で重い網が引きずられているとその後は破壊されて、稚魚の生息域が縮小されていると言われております。

また、インドネシアやフィリピンのサンゴ礁等で、一般的に行われているダイナマイトやシアン化合物を使った漁なども深刻な脅威となっていると言われております。こういったことから、タイやマレーシア、フィリピンの漁業資源の減少率が毎年高くなっているものです。本市近海におけるサンゴ漁も、好漁場を痛めているとまで言われておりますが、カツオ、サバ、メジカ等多くの魚介類が少なくなっていると言われておりますが、これらの漁場対策等について、産業振興課長のお考えを確認したいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（武藤 清君） 執行部の答弁を求めます。

産業振興課長。

（産業振興課長 泥谷光信君自席）

○産業振興課長（泥谷光信君） お答えいたします。

サンゴ漁については、ここ数年、中国の富裕層への人気からサンゴ価格が高騰し、土佐清水市においても新規参入する漁業者がふえているのが現状であります。

県内では、これまでサンゴ漁に従事する漁業者は130人前後で推移していたものが、昨年末には約350人まで増加しております。そのため、県は、規制を強化し、禁漁期間をこれまでの1月、2月に加えて、サンゴの産卵期でもある6、7月も禁漁期間と定めて、操業時間についてもこれまでの日の出から日没までを、日の出から午後3時まで短縮しております。

また、操業実態や採取量を毎月県へ報告することも義務づけてきました。

これによって、資源確保に努めるとともに、今後も取引を継続していけるよう、国際的な理解を得ることに努めております。

サンゴ漁の影響で、魚が少なくなっているのではというご指摘ではありますが、カツオやメジ

カは回遊魚でありまして、直接的にその根拠を示すデータは今のところございません。しかし、県では２３年度、２４年度において室戸沖、足摺沖で宝石サンゴに関する漁業資源調査を行っておりますので、その中で海底地形の調査もあわせて実施しております。その報告書も踏まえて、今後、関係機関と協議をすることになっておりますので、ご報告いたします。

○議長（武藤 清君） １番。

（１番 矢野川周平君発言席）

○１番（矢野川周平君） 産業振興課長のお考えはよくわかりました。ありがとうございました。

次に、漁獲量の拡大を図る目的で、漁礁や投石等を海中に沈めましたが、その成果等について産業振興課長のご所見をお聞きしたいと思いましたので、よろしくお願いします。

○議長（武藤 清君） 産業振興課長。

（産業振興課長 泥谷光信君自席）

○産業振興課長（泥谷光信君） お答えいたします。

議員もご存じのとおり、平成１３年度以降は、投石や漁礁の設置事業は行っておりませんが、その当時の資料を見ますと、設置当時においてはイセエビ等の刺し網、建網漁に一定の効果が上がっておりまして、現在も継続的にイセエビ漁の水揚げにはつながっているとこのように考えております。

○議長（武藤 清君） １番。

（１番 矢野川周平君発言席）

○１番（矢野川周平君） 課長、どうもありがとうございました。

次に、森は海の恋人と言われております。瀧澤議員もよく言っておりますが、以前、NHKの番組でありますプロフェッショナルという番組で放送されました宮城県気仙沼湾でカキの養殖をしている畠山さんという方が、３・１１の大災害からいろいろな努力や偶然、多くの支えによって復興していく物語でありました。

大変感動いたしました。

山に木を植え、山の森や林が悠久の歳月をかけて腐葉土をつくり、その腐葉土から有機酸であるフミン酸とフルボ酸がつくられ、１滴の水や霧などにより、ほんのわずかな確率で鉄イオンを求め合い、森から海への贈り物と言われている栄養で、魚や海藻などの必須ミネラル、フルボ酸鉄と言っておりますが、それが川から海へ届けられております。

水源涵養でもありますので、今後におきましても、山林の育成は欠かせないものと思いますが、産業基盤課長のお考えをよろしくお願いします。

○議長（武藤 清君） 産業基盤課長。

(産業基盤課長 磯脇堂三君自席)

○産業基盤課長(磯脇堂三君) お答えします。

議員ご指摘のとおり、森林でつくられた栄養分が雨水に溶け、河川を通して海に運ばれます。雨が降り、また森林に蓄えられた栄養分が徐々に河川に流れ出し、生物を豊かにする。こうした循環で大切なことは、間伐をして豊かな森をつくることだと思っております。森林の落ち葉が腐る段階で、水溶性のフルボ酸という腐植物質ができ、フルボ酸が土中の無酸素状態の中で水に溶けてイオン化された鉄と結びついて、フルボ酸鉄という物質になります。フルボ酸と結合した鉄は、森林から河川に運ばれ、鉄イオンの場合は鉄粒子に変わりますが、フルボ酸と結合したフルボ酸鉄は、極めて安定的で、そのままの形で海に届き、植物プランクトンや海藻が吸収します。この植物プランクトンや海藻が吸収しやすいフルボ酸鉄を含むイオン化鉄は、海中には微量しかなく、絶えず河川から供給されることが必要となりますので、フルボ酸鉄の給源は森林に求められています。

漁業や農林業に携わる人々の間に、森が消えれば海も死ぬとよく言われているように、海の環境を守るには、そこに注ぎ込む川、そして上流の森林を育成することが大切だと考えております。

以上でございます。

○議長(武藤 清君) 1 番。

(1 番 矢野川周平君発言席)

○1 番(矢野川周平君) 産業基盤課長から、森林を育成するということが大切という答弁がありました。どうもありがとうございました。

専門家の話によれば、最近、山村は過疎化が進み、山里は荒れ放題、またコンクリートの護岸やダムなどにより、フルボ酸はできても、鉄イオンと遭遇しないまま海に流れていると言われております。フルボ酸鉄について、鉄イオンの持つ効用で構いませんが、その波及効果などどのように考えておられるのか、産業基盤課長の考えをよろしく願います。

○議長(武藤 清君) 産業基盤課長。

(産業基盤課長 磯脇堂三君自席)

○産業基盤課長(磯脇堂三君) 鉄イオンについての私が調べた範囲でのお答えをいたします。

鉄は呼吸系統における酸素運搬、ヘモグロビンの中心元素であり、私たちは鉄なしでは生きていけません。また、光合成を行う生物には、葉緑素などの光合成色素に不可欠な元素でもございます。

樹木は、根から水分や栄養素を吸収し、葉から二酸化炭素を取り込みますが、昆布などの海藻は葉から栄養素を吸収しています。ところが、海では、鉄はイオンではなく、粒子の状態で

存在していることから、藻類、海藻に不可欠な元素であるにもかかわらず、大部分がこれらの細胞膜を通過できない大きさであります。先ほど申し上げましたが、海の光合成生物に影響を与える鉄の供給源は、腐植土層において枯れ葉などの分解で酸素が消費され、酸素のない部分が形成される。酸素のないところでは、鉄はイオンとして存在しています。腐植土層で形成された腐植物質、有機物には、水に溶けるフルボ酸と水に溶けないフミン酸に分けられます。このフルボ酸と無酸素部位で生成された鉄イオンと結合し、フルボ酸鉄として河川を通して海に運ばれ、藻類、海藻に吸収されることになります。

このように、豊かな海をつくるには、鉄イオンは欠かせない存在であり、ひいては豊かな森をはぐくむことが大切であると思っております。

以上でございます。

○議長（武藤 清君） 1 番。

（1 番 矢野川周平君発言席）

○1 番（矢野川周平君） 産業基盤課長、豊かな海をつくるためには、鉄イオンが欠かせないという答弁でありました。どうもありがとうございました。

ぜひとも職員にも情報の共有をお願いするとともに、今後の漁業振興に役立てていただきたいと思いましたので、よろしくお願いします。

この件は終わりにいたします。

次に、既に取り組もうと考えているかもしれませんが、土佐清水産の間伐材を使い、漁礁の設置を検討してはどうかという質問であります。

目的は、森林整備の促進、森林、里山の環境保全、2 点目には、回遊魚のすみかの形成、3 点目は山と海の連携による総合的な自然環境の保全、4 点目は山地災害の防止、5 点目は、推測になりますけれども、フルボ酸鉄の増殖など、大きな期待が考えられますが、産業基盤課長のお考えをよろしくお願いします。

○議長（武藤 清君） 産業基盤課長。

（産業基盤課長 磯脇堂三君自席）

○産業基盤課長（磯脇堂三君） 議員ご提案の間伐材を使用した漁礁の設置の検討についてお答えします。

平成18年3月に水産庁漁港漁場整備部による漁礁への間伐材利用の手引きが作成され、これまで静岡県松崎町、山口県阿武町、兵庫県豊岡市など、幾つかの市町村で間伐材を利用した漁礁の実証が行われています。

木材を利用した漁礁は、コンクリートや鉄製の漁礁に比べ、フナクイムシなどの餌料生物が多く生息し、それを食べる魚が集まり、漁礁を中心に食物連鎖が起こり、早期に魚類が群がる

効果が見られるとのこと。反面、耐久性や経済性の面で課題もあると言われています。

国も現在、木材を利用した漁礁の実証実験を行っている聞いております。いずれにしても、間伐材を利用することで、健全な森が維持され、豊かな森をはぐくむことにより、腐葉土を流れた水が海藻を育て、この海藻が育つことで沿岸の魚介類が育つという、山・川・海の生態系をよくすることだと思っております。

今後、間伐材を利用した漁礁の新たな補助制度の創設など、国の動向を注視していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（武藤 清君） 1 番。

（1 番 矢野川周平君発言席）

○1 番（矢野川周平君） 産業基盤課長、どうもありがとうございました。どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。

次の質問ですが、その前に、本市の広報 6 月号に掲載されました農業委員会のひまわりプロジェクトというのが掲載されました。大変感動いたしました。

今後のいろいろな展開が楽しみであります。

また、多くの方々に夢を与えてくれるものと期待しております。ありがとうございました。

三崎地区の入り口のところです。本当に皆さん感謝しております。

それでは、次の質問を行います。

最近、かつて山間地とか、過疎地、離島とか言われた場所で、地域活力、いわゆる田舎力と言いますけれども、地域活力が出てきたところがたくさん出てきております。人口わずか 1,200 人、1,000 人割ったかもしれませんが、森林面積 96% の山間地で、ゆずの加工品と言えはすぐわかる、本県の馬路村や伊賀の里モクモク手づくりファームとか、葉っぱで有名になった徳島県の上勝町とか、エコツーリズムを生かして農産物を高価で販売しているコウノトリで人気のある兵庫県の豊岡市など、これからいろいろな地域で地域活力を生かそうとしている、いろんな地域があると言われております。

本市におきましても、農業従事者不足やそれに伴う雑草の対策、それから重労働ですので、稲作に対して機械や農薬で水田に生きる生物がいろいろ姿を消していると言われております。

本市に限らず、環境政策や自然保護政策をとってこなかった自治体は、どこも同じような生態系になっていると思われます。時代は移り、最近の消費者の意識は、安全安心を求めていることから、環境のよいところで育った作物には、特に特産品には高い付加価値がつき、価格を下げず、その地域独自のブランド力を持つことになるということは、皆さんもご承知のことと思います。

宮城県と千葉県の冬期湛水、冬の田んぼを乾燥させずに、水をためる方法です。不耕起栽培、水田を耕さず、大きく育った苗を植えて収穫する方法。その田に、トンボやタニシ、ドジョウなど、たくさんの生物が帰ってきて、食物連鎖の影響から、渡り鳥がやってくるようになったということです。このことからいろいろな研究者や観光客などでにぎわっております。

小中学生の環境教育にも大きな成果が出たということでありました。

本市も同じようにできれば、冬期湛水に不耕起栽培について、研究あるいはどこでも実際、どこかの地域、冬場に水のある地域でないといけませんけど、取り入れてみてはどうかと思いましたので、産業振興課長のお考えをよろしくお願いいたします。

○議長（武藤 清君） 産業振興課長。

（産業振興課長 泥谷光信君自席）

○産業振興課長（泥谷光信君） 冬期湛水につきましては、基本的に冬場に雨が多くて、水不足の心配がない日本海側の地方で多く実施されると聞いております。

冬期湛水を行うことで、微生物等の多様性を高め、水田の環境面での付加価値を生み出す効果も期待でき、不耕起栽培と組み合わせて無農薬による米づくりを行えば、一定の付加価値が確立できると考えております。

ただ、この栽培方法というのは、通常の耕起から農薬を散布している本市のような水田では、すぐにその効果があらわれるものではありません。基本的には無農薬栽培による長年の積み重ねが大切とされております。ですから、本市で実施する場合、冬期湛水、不耕起栽培の前提条件とも言える無農薬の栽培から始める必要がありますが、この方法では害虫による被害や収穫量の減少などが想定されるところから、生産者の理解と協力が必要であります。

しかしながら、議員提案のように、自然保護や環境保全の観点から、また、観光産業と連携して取り組んでいけば、大きな魅力と可能性があると思いますので、今後研究してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（武藤 清君） 1 番。

（1 番 矢野川周平君発言席）

○1 番（矢野川周平君） 産業振興課長、今後研究していくということですので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

なかなか簡単にこういうことは、最初からうまくいかなかったことがありますので、市長にお伺いします。

水田に冬期も水をため耕すこともせず、労力をかけず、農薬を使わない農業で足摺宇和海国立公園をさらに進化させることができれば、I ターンやU ターン、観光客等で本市の人口が増



加傾向に転じるかもしれません。冬期湛水、不耕起栽培農業について、どのように考えておられるのか、よろしくお願いします。

○議長（武藤 清君） 市長。

（市長 杉村章生君自席）

○市長（杉村章生君） 今、いいお話をいただきまして、私も注目して聞いておりましたが、担当課長がお答えしましたように、前提条件が幾つかあるようでございますので、その辺も慎重に現在の耕作者等も含めて、何よりも地域や耕作者ご自身のご理解なども要るかなと思います。

もう一つは、農業委員会が間もなく改選の時期で、議会のほうでも委員さんを推薦する動きがあるかと思いますが、従来、新しい農業委員会改選のときに、私はいつもどうか農政の具体的な振興策、課題を出してもらいたいということを専門の立場でということですが、一定の効果は出ておりますけれども、最近はまだひまわりなどで非常に話題が出ておまして、結構なことと思いますが、こういう今、ご提案のあった点も含めまして、ぜひ農業委員会が新しくできましたら、ごあいさつをさせていただきますので、新しい分野での政策提言やいろんな課題などについてもお願いしながら、かと言ひまして、それは他力本願ではいけませんので、行政が主体としてどうするか、担当課長がお答えしましたように、行政も積極的に検討いたしまして、何よりも農地を半年間遊ばせないというようなことは、大事なことです。積極的に考えていきたいと思います。

○議長（武藤 清君） 1 番。

（1 番 矢野川周平君発言席）

○1 番（矢野川周平君） 市長、どうもありがとうございました。この件につきましては、以上で終わります。

最後の質問になりますが、皆さんもご承知のとおり、清水小唄をもう一度と題しまして、昨年 9 月 16 日にパガニーニ合奏団により、市民文化会館で見事に再現されました。童謡作家で有名な野口雨情さんが、昭和 11 年、まだ合併前ですけども、清水に訪れた際に作詞され、中山晋平さんが作曲されたというふうに言われております。そのころはよく市民の中でも歌われていたそうですが、時は流れ、清水小唄は埋もれていこうとしておりましたけども、元参議院議員の平野貞夫さんなど、数多くの方の献身的な努力により、少し編曲されていると聞きましたが、演歌歌手の真咲佳世さんが歌い上げ、眠っていた清水小唄が再び世に出てきました。

教育長にお伺いします。

この歴史ある清水小唄について、どのような感想や見解をもたれているのか、お聞きしたいと思いましたので、どうかよろしくお願いします。

○議長（武藤 清君） 教育長。

（教育長 村上康雄君自席）

○教育長（村上康雄君） お答えをいたします。

清水小唄につきましては、今、議員が言われましたように、童謡・民謡作家で有名な野口雨情さんが昭和11年に清水を訪れたときに作詞され、中山晋平さんが作曲したものと言われております。

野口雨情さんは、明治15年、1882年に茨城県の廻船問屋を営む家の長男として生まれ、北原白秋、西條八十とともに、童謡界の3大詩人と言われておりまして、有名な作詞には「赤い靴」、「七つの子」、「しゃぼん玉」など、数多くの名作を残しております。

この清水小唄を昨年9月16日に本市の文化会館におきまして、宿毛市出身で東京芸術大学名誉教授、山岡耕筈さんが率いるパガニーニ合奏団によりまして演奏されたことは、記憶に新しいところでございますけれども、私もそのパガニーニ合奏団の演奏に合わせて、歌手の真咲佳世さんが歌ったのを初めて聞いたわけですが、当時の西日本有数の水揚げ高を誇った清水の町のにぎわいや、足摺岬、叶崎の漁場などが思い浮かんだところでございます。

今後は、この貴重な土佐清水市の文化遺産であります清水小唄を、広く市民の皆さんに鑑賞していただきたいと思いますと考えております。

以上でございます。

○議長（武藤 清君） 1 番。

（1 番 矢野川周平君発言席）

○1 番（矢野川周平君） 大変な答弁でありがとうございます。

野口雨情さんの作品は、北原白秋、西條八十とともに、童謡界の三大詩人であること、「赤い靴」、「七つの子」、「しゃぼん玉」、列挙されまして、大変よくわかりました。

また、清水小唄は土佐清水市の文化遺産であるとの答弁でありました。

続きまして、市長にお伺いします。

清水小唄についてどのような感想や思いを持っておられるのか、個人的な見解で構いませんので、よろしくお願いします。

○議長（武藤 清君） 市長。

（市長 杉村章生君自席）

○市長（杉村章生君） お話ありましたように、昨年、平野貞夫さんがご縁があつていろいろ紹介してくれまして、先ほど教育長がご答弁しましたように、文化会館で発表会ありまして、その後にCDもいただきました。そして、それを私は、何回も自分の部屋で聴いて、職員にも聴かせましたが、何といいましても非常に調子がいい、いわゆる小唄であります。ですから、

私はあしずり踊りを担当しております青年会議所の皆さん方にも個人的でございますけど、これもひとつあしずり踊りと並ぶくらいに育てて、舞踊の振りつけもつけて、清水の一つの新しい有名な地元の歌にしてはどうかと言った経過もあるんですけど、私個人としては、非常にほれ込んでおりました、調子もいいし、7番くらいまで確かあったんじゃないかと思うんですが、これも前段話がありました歴史のある作詞作曲でございますので、育てていきたいと考えております。

○議長（武藤 清君） 1番。

（1番 矢野川周平君発言席）

○1番（矢野川周平君） なかなか、市長どうもありがとうございます。

あしずり踊りと並ぶような歌ということでありがとうございました。

この清水小唄が最近、インターネット上に公開されました。教育長も、市長もご存じだろうと思いますが、ユーチューブで公開されて、世界中に清水小唄が流れていると思います。平野貞夫さんのブログにも、音楽史上革命的なでき栄えと喝采しておりますが、私もよい作品だと思っておりますので、市内外を問わず、多くの方にアクセスしてほしいと願っております。

できれば、小学校や中学校、先生など、この清水小唄のよさを伝えていけるような取り組みができないかと思いましたので、教育長、ひとつ考えがあればよろしくお願いします。

○議長（武藤 清君） 教育長。

（教育長 村上康雄君自席）

○教育長（村上康雄君） お答えをいたします。

清水小唄につきましては、まだ多くの市民の皆様には知られていないのが現状ではないかと考えております。議員が今言われましたように、昨年9月の文化会館での発表の様子がインターネットのユーチューブで公開をされておりますので、今後は校長会等を通じまして紹介するなど、清水の文化遺産であります清水小唄を広く市民の皆さんに知っていただきたいとそういうふうに考えております。

以上でございます。

○議長（武藤 清君） 1番。

（1番 矢野川周平君発言席）

○1番（矢野川周平君） 今後、校長会等を通じて紹介してくれるということで、また広く市民にも知ってもらいたいという答弁でありました。ありがとうございました。

最後に市長にお伺いをいたします。

できれば、広報などで市民に周知され、インターネットにアクセスしてほしいと願っておりますけれども、できれば市長の答弁、よろしくお願いします。

○議長（武藤 清君） 市長。

（市長 杉村章生君自席）

○市長（杉村章生君） 広報でお知らせすることは、それは結構なことですから、協力させてもらいますけど、曲を聴いていいなという気分が乗ってくるというか、それが大事だと思いますので、いろんな機会を通じてこの歌を聞いていただく。もっと広めていくと、もうちょっと積極的にやるように、係とも話をしてみたいと思います。

○議長（武藤 清君） 1 番。

（1 番 矢野川周平君発言席）

○1 番（矢野川周平君） 市長、どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

以上で、私のすべての質問を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（武藤 清君） この際、午食のため、午後 1 時まで休憩いたします。

午前 11 時 39 分 休 憩

午後 1 時 00 分 再 開

○議長（武藤 清君） 休憩前に続いて会議を開きます。

午前に引き続き、一般質問を行います。

2 番、森 一美君。

（2 番 森 一美君発言席）

○2 番（森 一美君） 皆さん、こんにちは。清友会の森 一美でございます。午後の睡魔の襲う時間帯、気合いを入れて質問してまいりますので、よろしくお願いいたします。

消防長、消防署長、新庁舎で業務が開始されたことのお喜びを申し上げます。

あなた方の力で防災拠点としての機能を存分に発揮できる施設運営の基盤づくりをされますようにお願いいたします。

さて、通常国会も会期末を迎え、与野党の攻防も熾烈を極めておりますが、消費税増税問題をめぐって、与党内でも対立が厳しい状況のようで、いつ分裂してもおかしくないように見えます。

私個人の意見としては、今の国の経済状態では、増税もやむを得ないと考えておりますが、果たして増税をして税収がふえるかどうか、少し不安に思っております。

例えば、増税によって買い控えが起きたとしますと、消費税の収入も減るし、企業の収益も落ちて、法人税の減少まで引き起こす可能性を秘めているからです。

また、先ほどのニュースでギリシャの再選挙の結果が出たようですが、ヨーロッパにおける経済危機も我が国に悪影響を及ぼす危険性があります。それやこれやと世界や国の問題を悩んでいても仕方がないと思います。我々市議会議員は、市民の安全・安心な生活を守るために最

善を尽くす努力をして、よりよいまちづくりと活性化を目指さなければならないと思っております。

せんだって、国は大震災大津波予測を発表し、県民全体を震え上がらせました。

県の予測は国の予測より少し小さいものですが、やはり大災害が予測されております。私は、これまで津波避難場所の見直しを質問してまいりましたが、今回は国や県の予測を受け、避難場所の実査をしてから、また改めて質問したいと考え、この質問を見送りました。

執行部のほうにおかれましても、危険性を十分認識し、市民の安全を守るための努力を行っていると思います。

それでは、通告に従いまして、順次、質問をしてまいります。

まず、農地利用集積事業についてから質問してまいります。

これは、本年の４月４日付の高知新聞の記事だと記憶しております。

見出しに「農地拡大交付金、利用は３割」国は、農水省が１００億円の予算を計上してこの事業に取り組んでおりますが、申請は３３億２，０００万円だったということのようです。

農地の経営規模を拡大したい農家に、手助けをする団体をつくって、これに支払う交付金のようですが、使い勝手が悪いのか、はたまた審査基準が厳しいのか、ほとんど活用されておられません。

本県においてもたった２件の申請のようです。

産業振興課長、お帰りなさい。産業振興課はあなたが３年間外部団体で培った知識と経験を生かす格好の場所であると思います。産業活性化の牽引者となり、力を発揮していただきたいと思います。

早速ですが、農地利用集積事業制度の概要について、教えていただきたいのでお願いいたします。

○議長（武藤 清君） 執行部の答弁を求めます。

産業振興課長。

（産業振興課長 泥谷光信君自席）

○産業振興課長（泥谷光信君） 農地利用集積事業の概要についてお答えいたします。

この事業は平成２１年度農地法の改正により創設され、農業経営基盤強化法で定められた農地利用集積円滑化団体、以下、円滑化団体と省略させていただきます。

この円滑化団体が行う農地の利用調整活動を支援する事業であります。円滑化団体が農地の所有者から借り手側の選定について委任を受け、６年以上の利用権設定による貸借契約を行った場合に１０アール当たり２万円を交付する農地利用調整活動支援事業と特定農業法人が同様に利用権の設定、農地を貸借契約をした場合に、種苗費、肥料費などの一部に助成を行う農地

引受支援事業、さらに市町村が農地利用の集積を円滑に推進するために、関係機関と連絡調整並びに普及啓発活動を行う、その経費を助成する市町村活動推進事業がありまして、これら三つの事業の総称が農地利用集積事業であります。

以上です。

○議長（武藤 清君） 2 番。

（2 番 森 一美君発言席）

○2 番（森 一美君） ありがとうございます。

一応、この制度ができたというようなのは、新聞報道などで知っておりましたけれど、何のようにすればいいのか、どういうふうな事業をやっていけばいいのかというのは、手続面については全然わかりませんでした。

要するに、農地の貸し借りの仲介をする自治体や農協などの農地利用集積円滑化団体という組織が必ず必要であって、その団体を通じて農地の経営規模拡大を図れば、その仲介をした団体に対して、事務的手数料として交付金がもらえる仕組みというように理解してよろしいでしょうか。

○議長（武藤 清君） 産業振興課長。

（産業振興課長 泥谷光信君自席）

○産業振興課長（泥谷光信君） 議員のご質問は、農地利用集積事業のうちの農地利用調整活動支援事業についてのご質問だと思いますが、交付金を受け取ることができるのはその実施主体である円滑化団体となっております。

ただ、その交付金の使い道というのが、この円滑化団体が事業実施のために行う農地の貸借についての意向調査や農地利用集積に向けた集落座談会の開催、また委任を受けた農地の保全管理などの費用に限られておりますので、単に経営規模拡大を図れば、交付金を受けられるというそういう制度ではございません。

○議長（武藤 清君） 2 番。

（2 番 森 一美君発言席）

○2 番（森 一美君） ありがとうございます。産業振興課長、4 月から現状復帰されたばかりなのに、結構勉強されてて助かります。

今度の機構改革等もあって、3 課をまとめて、またソフトとハードで2 課に区分しての新設課でさまざまな引き継ぎ事項があったとは推測します。そんな中で、全部を掌握することは困難でしょうけど、あえて伺いますが、引き継ぎ書の中にこの農地利用集積団体の設立に対してどのような会議や働きかけがあったか、また、その展開手順等の記録が残ってありましたら、教えていただきたいと思います。

私は、この集積円滑化団体というのができているという話を聞いてないので、できているか、できていないかもお伺いします。

○議長（武藤 清君） 産業振興課長。

（産業振興課長 泥谷光信君自席）

○産業振興課長（泥谷光信君） この円滑化団体を組織できるのは、農地利用円滑化事業規程というのを定めた市町村、それからＪＡ、市町村公社などのそういう団体が対象となっております。

土佐清水市においては、県をはじめ関係団体と協議の結果、ＪＡが実施主体となることが困難という回答を受けましたので、平成２３年５月１６日付で市が実施主体となってこれを設立をしております。

なお、この制度、事業については当然、前任者より引き継ぎは受けておりますが、議員からお話のあったとおり、高知県では香美市のみが２件の農地利用調整活動支援事業を行っておりますが、県下的に実施件数の少ない要因については、貸し手側が円滑化団体に白紙委任を行うということが前提でありますので、そしてあわせて対象農地も隣接するということが条件であるということなどから、やはりこの事業実施には高いハードルがあったというふうに引き継ぎを受けております。

○議長（武藤 清君） ２番。

（２番 森 一美君発言席）

○２番（森 一美君） ありがとうございます。

市のほうで農地利用集積円滑化団体を立ち上げてくれていたというのを聞いて安心はしましたけれど、しかし、残念なことに農家や土地の所有者に対して、この制度の周知徹底というのは、なかなかされてなかったような気がします。私の知っている人なんかも、あと耕作してくれる人がいたら、そこをお願いしたいというようなことも言っておりましたが、その話が出てこなかったのも、ちょっと残念に思います。

この記事の中には、実情に合わせ、制度の見直しへというところが出ておりますけど、農水省のほうは、１２年度からまた制度見直しを検討するということみたいですけど、見直されたような制度の説明等は受けておりますか。

○議長（武藤 清君） 産業振興課長。

（産業振興課長 泥谷光信君自席）

○産業振興課長（泥谷光信君） お答えします。

先週、６月１３日に農業振興センターで県農地担い手対策課が行った説明会において、これは農林水産省の未定稿の資料といたしまして、今回の見直し案が示され、協議が行われた経過

がございます。

具体的には、集積の対象農地から隣接の要件を緩和したり、農地を貸す側に協力金を支給したり、そういった見直し案にとどまっております、これによって抜本的に制度自体が変わるものではないというふうに考えておまして、今回の見直しにより、大規模な圃場が続く北海道や東北のような事業の展開はちょっと見込めないのではないかとこのように考えております。

ただ、今後法案の成立によりまして、正式に通知があった時点で、その変更内容を精査して活用について今後、検討してみたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（武藤 清君） 2 番。

（2 番 森 一美君発言席）

○2 番（森 一美君） ありがとうございます。

一応、制度の見直しをするという方向でいっているけど、成立までは至ってない。成立したら、またいろいろ指導をよろしくお願いいたします。

産業振興課長、しつこく聞いて申しわけないんですけど、今、市内の一次産業は、後継者不足に悩んでおります。とりわけ農業後継者不足というのは厳しいものがありますし、清水市内というところは、結構、まだ昔の狭い農地圃場で、作業効率が非常に悪く、耕作を放棄される方がふえてきております。

また、一方で高齢による耕作放棄で、三崎の西岡さんという方なんかのように、1 点集中型の農業になってきております。西岡さんにあつては、30ha 以上も耕作しております。その耕作するために大型機械の導入や雇用対策に加え、米の値段が下がっており、これだけの農地をつくっても、耕作しても、経営は厳しいものがあるというふうに聞いております。

また、西岡さんのところも作業効率の悪い圃場が多く、それが経営をも圧迫している要因になっているのが実情であると私は思っております。

現に、下ノ加江では、今年の作付は全部終わりました。しかし、来年からは作業効率の悪い圃場は作付しないで放置するという話が出ております。

もし、作付しなければ、そばにある作業効率のよい広い圃場にも悪影響を及ぼします。見直された制度がきちっと決まったら、農地を守っていけるよう支援策をお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（武藤 清君） 産業振興課長。

（産業振興課長 泥谷光信君自席）

○産業振興課長（泥谷光信君） 先ほど申しましたとおり、正式に通知があった時点で、その内容と本市の実情というのを照らし合わせて、事業の展開が可能かどうか検討していきたいと



思います。

ただ、この制度に限らず、集落営農の組織化及び法人化への支援、そういったあらゆる農業施策を有効に活用し、農地を守るため、ひいては農業の振興を図るために産業振興課をあげて支援してまいりたいと思っております。

○議長（武藤 清君） 2 番。

（2 番 森 一美君発言席）

○2 番（森 一美君） ありがとうございます。ぜひよろしくお願いします。

もう 1 点お伺いしたいんですが、農地利用集積円滑化団体というのは、公的機関でなければ設立できないものでしょうか。例えば、下ノ加江の有志が集積事業に尽力してみたいという申し出があった場合は、そこに団体を設立して集積活動をする、交付金はいただけるのでしょうか。お伺いします。

○議長（武藤 清君） 産業振興課長。

（産業振興課長 泥谷光信君自席）

○産業振興課長（泥谷光信君） さきにご説明したとおり、円滑化団体である土佐清水市があくまでも交付の対象となっております。

ですから、民間で組織した団体については、対象外ということですので、どうかご理解をお願いしたいと思います。

○議長（武藤 清君） 2 番。

（2 番 森 一美君発言席）

○2 番（森 一美君） ありがとうございます。

民間ではちょっと難しいようですので、自分たちのふるさと自分たちが守れるように活動していきますので、いろいろまたアドバイスをお願いしたいと思います。

産業基盤課長にお尋ねします。

産業振興課長への質問でも申しましたが、圃場整備の終わってない作業効率の悪いところがたくさんございます。圃場整備についても産業基盤課長のお力をお貸し願いたいと思いますが、この農地利用集積事業の中には、小規模基盤整備支援という制度があると聞きましたが、この制度の活用方法について教えていただきたいと思います。

○議長（武藤 清君） 産業基盤課長。

（産業基盤課長 磯脇堂三君自席）

○産業基盤課長（磯脇堂三君） お答えします。

市単独事業で、農道等の整備を行う小規模基盤整備事業は、私が担当している産業基盤課の業務であります。今回の農地利用集積事業に係る小規模基盤整備支援の事業につきましては、

産業振興課の所管となりますので、詳細は産業振興課長にお願いしたいと思います。

今回の機構改革により、わかりづらい点がございますが、よろしくお願いいたします。

○議長（武藤 清君） 2 番。

（2 番 森 一美君発言席）

○2 番（森 一美君） ありがとうございます。

産業振興課長、課長への質問はもう終わる予定でしたけれど、お聞きのように小規模基盤整備についても、農地利用集積事業の一環として組み込まれており、担当は産業振興課になるようです。この小規模基盤整備支援制度の活用について、ちょっと教えていただきたいと思います。

○議長（武藤 清君） 産業振興課長。

（産業振興課長 泥谷光信君自席）

○産業振興課長（泥谷光信君） ご質問の小規模基盤整備事業については、先ほどご説明をいたしました農地利用集積事業の中の農地引受支援事業に当たる制度でありまして、事業の内容も水田等のあぜを取り除く、そういった極めて小規模な整備と言いますか、そういうものに対してその費用の一部を助成するものであります。

なお、議員ご指摘のような事案に対しましては、先ほど、産業基盤課長のほうからも報告がありましたが、市単独事業である小規模基盤整備事業というのがございますので、所管課である産業基盤課と連携を密にしながら、スピード感を持って対応してまいりたいと思います。

○議長（武藤 清君） 2 番。

（2 番 森 一美君発言席）

○2 番（森 一美君） ありがとうございます。

本当に地域としても、できる限り活用する体制づくりを行ってまいりますが、産業振興課、産業基盤課ともに、またご協力よろしくお願いいたします。

市長にお伺いします。

産業振興課長、産業基盤課長からのご答弁をいただきましたが、今本当に農業経営は瀬戸際に立たされております。私が議員になったときに、あと10年は何とか農地耕作について守っていけるだろうと考えておりましたが、農家の話を聞いていると、もう限界だ。体力も資金ももたないという声が多くなっております。予想より進行が早くなっているような感じです。

ちょうどこの質問文をつくっていたときに、先週、クローズアップ現代で、この問題が出まして、東日本大震災の被災地を中継しておりました。向こうの被災地では、本当に農業を離れる人が多くなっているそうです。今さら新しい負債を抱えて農業を続けていけるのか、こういう点が課題になって、もうやめようじゃないかと家族で話し合っているというようなことを

言っていました。本当に先祖伝来の農地を手放すということは、農家にとって本当に心苦しい、先祖に申しわけないとためらって、悩んでいるようですが、この農地利用集積事業で規模拡大する農家を発見し、農地を託す相手を見つけて安心して離農したようです。

また、託された農家は、米だけではなく、野菜工場を立ち上げ、周年耕作生産をして農業経営の安定化を進めていました。その中心になっているのが自治体でした。自治体は、生産や販売まできめ細かく指導して、農業を盛り立てるように努力しておりました。うちも農地利用集積事業を活用して、農家を元気づけるよい施策を考えていただけませんか、お伺いします。

○議長（武藤 清君） 市長。

（市長 杉村章生君自席）

○市長（杉村章生君） 私も詳しい経過を今、聞いたところでございますけど、これは制度そのものは国の制度はいい制度だと思いますけど、利用する側にとっては、ちょっと使い勝手が悪いと。ましてや小規模の農家の多い本市のようなところでは、非常に使い勝手が悪いと言いましょうか、ほとんど適用にならないということで、やむなく小規模基盤整備事業に移るといような話も今出ておりますけど、十分この点を私も研究いたしまして、できればこの国の制度に代わって、補完できるような市単独でもうちょっと小規模ないしは農地集積に対して、市で何とかもうちょっと促進できるような制度が予算化できないかとか、ちょっと研究してみたいと思います。

○議長（武藤 清君） 2 番。

（2 番 森 一美君発言席）

○2 番（森 一美君） よろしくお願ひします。

また続いて市長にお尋ねしますが、これは先日の高知新聞の記事でございます。

これには津野町がアユの放流を行ったと載っておりますが、津野町では、ふるさと納税を活用して、稚アユ30万円分を保育園児と放流したそうです。

我々も下ノ加江川アユ保存会という組織をつくって、過去3年間下ノ加江小学校の子どもたちと一緒に放流してまいりました。しかし、今年はちょっと資金不足で断念せざるを得ませんでした。放流事業については、市の協力も非常にいただいております、継続できていたことですが、これについては感謝申し上げますけれど、私たちも何とか努力して、来年はまた復活させようと思っておりますので、よろしくお願ひいたしたいと思います。

しかし、放流し、保護する活動をして、それでもなお、市内の河川資源は枯渇が続いております。市内の河川に順次、津野町のように行政主導の放流事業はできないものなのでしょうか、お伺いします。

○議長（武藤 清君） 市長。

（市長 杉村章生君自席）

○市長（杉村章生君） 現在、水道課の所管におきまして、水源の水を利用させていただいております加久見川と三崎川で、毎年、10万円の予算を投入いたしまして、小学生の参加も得て放流しているということを聞きました。

今、あなたがおっしゃった川については、直接市の水源として利用している河川ではありませんので、水道課からお金出すというわけにはいきませんが、今、ご提案のありましたふるさと元気基金は、今ちょっと残高を聞きますと、市長にお任せという部分で10万円程度今、残っております。ですから、毎年10万円程度では少ないので、もうちょっと待ってためてから使うのか、さらには一般財源を多少継ぎ足してでも、必要な川についてはそれを積極的に考えるのか、ちょっと考えさせてください。

アユにつきましては、これは釈迦に説法でございますけど、清流度を試すバロメーターでございますから、アユを放流してアユが泳ぐということは、川がそれだけきれいだということの証明ですので、これはいい政策かなとは考えております。

○議長（武藤 清君） 2番。

（2番 森 一美君発言席）

○2番（森 一美君） ありがとうございます。

何とか実現していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

続いて、太陽光発電設備設置に対する補助金、これは正式には太陽光発電システム設置促進事業補助金というのだそうですが、その後の経過について伺います。

環境課長、先月から受付を開始したそうですが、申し込み状況についていかがでしょうか。

○議長（武藤 清君） 環境課長。

（環境課長 坂本和也君自席）

○環境課長（坂本和也君） 昨年の6月定例会で、議員からご質問のありましたこの補助金につきましては、本年度の当初予算へ市単独補助金として120万円を計上しております。

申し込み状況につきましては、5月1日から受け付けを始めており、本日現在8件、金額で85万9,000円の申し込みをいただいております。補助金の枠がまだ残っておりますので、設置の申請をいただきたいと思いますので、

○議長（武藤 清君） 2番。

（2番 森 一美君発言席）

○2番（森 一美君） そうですか。よくわかりました。

販売促進の条件がよくなるんだから、販売業者が喜んで営業活動を行い、恐らく設置希望者

が10件以上になると私は予想しておりました。ちょっと少ないのにびっくりしました。

市長、太陽光発電設備設置に対する補助金の助成については、本当に私は素晴らしい政策であると思っております。自然を大切にする心をはぐくむためにも、本当に必要だと思います。

私は、自宅に設置しておりますが、雨の日も晴れた日も、ほぼ毎日モニターを見ます。何キロワット発電したとか、どのくらいのCO<sub>2</sub>を削減したとか、モニターの数字を見て一喜一憂している現在でございます。

その分だけ自然現象に対する関心というか、思いが高まってきております。いま一度、再生可能エネルギーの活用と呼びかけをしてみたいかと思いますが、お伺いします。

○議長（武藤 清君） 市長。

（市長 杉村章生君自席）

○市長（杉村章生君） 呼びかけについては、結構なことだと思いますけども、仮に申し込みが多かったら、また予算を組まないといけませんので、その辺の見通しももってしなければいけませんけど、基本的にはやはり今、再生可能エネルギーの問題が国内問題と言いましょうか、大きな課題になっておりますから、これはいいことだと思います。

発足の時点では、いわゆる国が今、48円と言われておりますけど、その助成について買い取り制度ですね。これについて、一般の太陽光を利用しない人からの電気料で賄うという仕組みそのものに対する反発などがありまして、国民の間ではなかなかまだまだ反発の分野もありますけども、この原発がこのような状況になりますと、なおさらこの再生可能エネルギーについては、前に出して討議せないかん時代が来ましたので、これを何とか克服してやっていきたいと思いますが、これはだんだん思想が広がりますと、結局、そのCO<sub>2</sub>を減らしたり、そしてまた危険なエネルギーから安心なエネルギーへということで、国民全体がその利益を共有するんだという思想が徹底すれば、結果として一般の普通の電力会社からもらう電気に対して、上乗せ料金で払うという抵抗も和らぐのではないかと思いますので、そういう長期的な判断も含めまして、呼びかけそのものはもっとやっていったらいいなと考えております。

○議長（武藤 清君） 2番。

（2番 森 一美君発言席）

○2番（森 一美君） ありがとうございます。市長としては、財政問題とのジレンマ等もあって、なかなかこの呼びかけをするというのも厳しい面があるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

今まさに梅雨本番、今日はちょっと晴れておりますが、あした台風が来そうだという予報もあります。厳しい状況だと思いますが、この梅雨時は大量の太陽光発電は期待できませんけれど、設備はそれなりに頑張っております。健康管理に気をつけ、市民のために、市の発展のた

めとともに頑張りますよう祈念いたしまして、私のすべての質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（武藤 清君） お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会いたしたいと思えます。

これにご異議の方はございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（武藤 清君） ご異議なしと認めます。

よって、本日の会議は、これをもって延会することに決しました。

本日はこれをもって延会いたします。

明6月19日午前10時に再開いたします。どうもご苦労さまでした。

午後 1時34分 延 会